



始



特259
109

鶴

(梗概) 諸國一見の僧、攝州蘆屋の里にて一夜を明けるふ、夜も更け方の波間により、何とも知れず寄り来る物あり、見れば舟の形は有りながら、唯た埋木の如く乗りたる人も定かならず、如何なる者ぞと問ふに、鶴の亡心なりと明かれて仔細を語る。近衛天皇の御時、夜毎に御殿を襲ひて主上をおびやかし奉りけるが、或る夜それとも知らぬ頼政の弓勢に射止められ難なく退治せられ、うちは舟といふにて淀川に流れされより浮みもやらずとて、成佛の縁を僧に頼み、再び変化の姿にて現れ、射伏せられたる當時の様を舞ひ學びて成佛得脱の身となりぬ。



シテ
舟人

後レテ
鶴の亡靈

ワキ

旅僧

卷之三

季月
秋 扶桑歷蘆屋

も和ぬなる伝太比森モトヒマツあすひてアシテ松
原ハラを里の實住ミタマサム也や難波ナガハ
舊居コトハシの里に還カムり
是シテはまの里リよまくシテ日比義ヒヨシくみ
詞と魚山城ウオヤマシロよ

首サヘ龜カメの浮ハラあづまアヅマむまムマいよ埋マサニめメさサ
ばバむムきキもモあアたタてテ亡マツんム何ナニよヨあるアリ哉カク
一セイ 漢カン流リュウもモ波ハ乃ノ波ハのノうウはハるルめメ 同上ドウジョウ まだぎき
てテたタえエぬヌいイふフへヘをヲ 黑クひヒまマつツべきビ豫ヨそ
あアれレ 歩ハシ上アゲ わきワキ上アゲ あアきキをヲあア出スよヨ浮ハラみミるルをヲ
のノをヲえエばバ 独ハラ北ヒタチみミなナざザらラ矣ヨリ

あにもあきらの わき二二二二二二二
あみけのおくじもさとぞよひより
我もうきふしほ波の 潟よされて
あぐささとてきふりうほめ
理りあうゆくア我ヤラんるめもりぬき
れをよあ寐て延び人のいせをひ
くわき

こじる二二二二ト二二二ア、ウル二二二二二二
経へみ難や旅ぐハ世をよきよるが
ナリ、ア、ウル二二二二二二二二
なり、かく名のこそ控かみはの力を、
こじるト二二二二二二二二二二
済むあま

何と見えせせん

聞えども勝にひ名を、は名宣ひへ
今ハ何をうつまへき、是、迎は院の津
すにわぬが年をようま身をせし。

あにもあきらの わき二二二二二二二
あみけのおくじもさとぞよひより
我もうきふしほ波の 潟よされて
あぐささとてきふりうほめ
理りあうゆくア我ヤラんるめもりぬき
れをよあ寐て延び人のいせをひ

鶴といふ化生のもの、亡魂までひよ
承ま入らきは前よ流とままでひよ
り今ふ耽んぬてうあうにま見えやひ
詔をとまかせびりへ わき
あむと鶴の亡魂
ゆくゆり跡あがれよ弟ひりへ 古代王と
を伍す達也へ 引上
拘もんを清院の法を佐

則公卿令誠あつま
日、言て變化の甚
亦へ武士よおほせて來まゐべし速
源平あちの兵を擇せしきける程ふ
軒改を挾み出されより
曲下軒改生財ハ
無庫限とぞゆける者みよる郎官小
猪早太郎一人石具トヨウ
又身ハ二重

比將夜よ山鳥の尾にそく射まうきとあ
諱牛ニ筋す處そちよえとてひ駕の
大麻子筋儀にて清濁の割限をいまや
くと往居アリ去程よ事せどく、
雲一村立あり、清駕北上ふおもひより
軒改きうど見あくまがすかよあや

月夜の姿あまやア 上矢とあつぐひ
あまハ帽大菩薩ヤアモ羽室にて
よつひきゑやうと放つ矢みをさへて
ばらとあるえりや相ノど矢まけひ
リてわづる処を狹まちはとありてつけ
きあ九刀そさひきりくるぬ火をさか

うふ跡あめ すゑ多生の縁ぞと
て時も我あま今宵も あ紀
せせ人よあひ竹の 摘みあつ
る日 東とうもく してよるの波
月 月元一ト、二ニト、三ニト、
浮ぬ波みづく まほどの 袋す
よきく鶴のアモ おそろ」 やすサホド

東もへりやま上五十二数を家因性の淫樂
にひききて生れぬ此月乃は汝にうるひは
乞ふ事ありありがや あすぎやれ
見ぬ事ある事をされば面と猿足と虎
虎や下ふ勢いぬ変化の爲めゆおそろ
の事やあ あも我忍んやがら此度

化と成て仏は三法のほとりんと王城近く

遍瀉して東三秦の林庭よ勢充約一里

三をうまのよあくふは破此上に毛おほへ

月上

則は極頻よく

ひえたまゆせぬふともあれあは業よと
いふをもるにとひもよきり一軒改

ヤラ

有所權他著

昭和十一年九月廿五日印刷
昭和十一年九月三十日發行

定價金五拾錢

著作者 寶 生 新

東京市下谷區上野櫻木町四十八番地
東京市京橋區銀座西六丁目三番地

發行兼印刷者 江島伊兵衛

發行所 下掛寶生流譲本刊行會

ここにアーダリハニセニニニニニニニ元一、二、三、
川のナムドミツ流まつ行まのナドとのも同ド
茅むれやの浦モヒテ浮よ流まうつてくち
あぐくうつるおの月日もみもだくくぢよ
里閑きらひよぞ入よける。タクに四せ山の場
乃はるうにてくせ。山比端の月とせふ滿月
を入よきり海月も入よきるどりや

終

